

有限会社田中かまぼこ店

| | | | | | |
|----|-----|--------|---------|------|---------|
| 業種 | 製造業 | 事業所所在地 | 鹿児島県始良市 | 資本金 | 3,000千円 |
| | | | | 従業員数 | 5名 |

| | | | |
|--|---------------|---|------|
|  | 被承継者（右） | | |
| | 田中 茂樹 | 68歳 | ※承継時 |
| | 承継者（左） | | |
| | 田中 健太 | 37歳 | ※承継時 |
| 事業承継を行った時期 | 被承継者と承継者の関係 | | |
| 2019年5月 | 子ども | | |
| 承継前の主たる事業の内容 | 承継前の主たる事業の課題 | | |
| 創業75年、地域でも老舗のかまぼこ・さつまあげ製造販売業。創業当初は蒲鉾が主力商品であったが、昭和後期から平成にかけてはさつま揚げをメイン商品として県内外の発送も始め、順調に推移。平成の中頃からネットでの販売も行うようになった。 | ・新商品・新サービスの開発 | ①人口減少や若者の魚離れ等もあり、既存商品だけでない新商品（ヒット商品）の開発。 ②安心・安全・美味しさを求めている原材料や食用油の活用活性化。 | |

| 事業承継を実行するまで | | |
|--|---|--|
| きっかけは？ | 承継計画の立案 | 承継までの不安と準備 |
| 承継実行の 2年前 | 被承継者と承継者で話し合ったこと | 被承継者の承継に対する不安 |
| 父が元気なうちに事業承継を行い、「田中かまぼこ店」としての歴史と伝統を引き継ぎながら、跡取りとして新しい製造方法や商品開発やアイデアを試したいと考えるようになったこと。商工会や青年部の事業承継セミナー等を通して、自分主導での経営改善を行うには「承継」が一番ではないかと考えるようになった。 | 承継時期のスケジュールについて、決算期である2年後の5月に行くことを決め、顧問税理士にも相談を行った。役員変更・報酬等についても検討した。 | 自分の代だけで終わらずに事業を引き継いだことは、非常にうれしく思うが、今後の事業の伸びしろについては不安である。 |
| | 関係者との調整 | 承継者の承継に対する不安 |
| | 税理士・商工会等にも事業承継の時期について連絡。あわせて取引先等にも徐々に周知を行った。 | 製造面や技術面での不安要素はあまりないが、ピーク時と比較して売上等が減少しているなかで今後順調に売上の確保ができるかが不安要素。 |

これに一番苦労した！

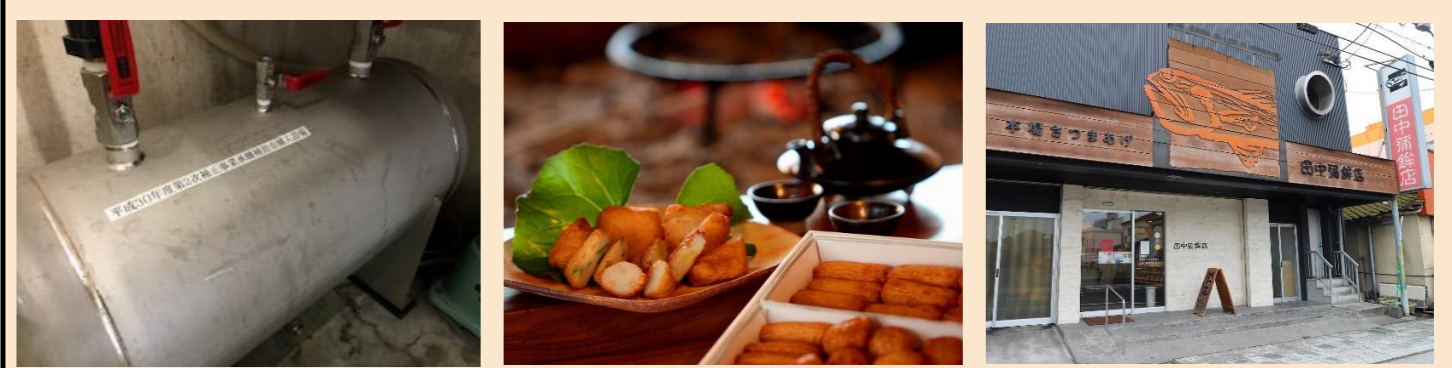
新商品のアイデア等がありながらも先代の歴史や伝統を重んじる気持ちに負けて実行することがなかなかできなかったが、事業承継を機に新システム導入、若者向けや安心安全を優先するターゲット層に対する取り組みに着手することができた。

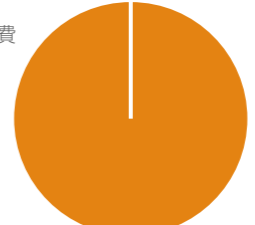
| 事業承継について相談したこと | |
|----------------|--|
| 相談した機関の業種 | 承継に関して受けたサポート内容 |
| 税理士・税理士法人 | 事業承継において税務面が特に気になっていたが、顧問税理士からの後押しも重要となった。 |
| いつから相談？ | |
| 承継実行の 1年前 | |
| 相談のきっかけ | |
| その他 | |

経営革新等に係る取組の標題 「生建電子システム」導入による品質向上と新商品開発事業

| 経営革新等に係る取組の内容 | 新商品の開発又は生産 |
|---------------|------------|
|---------------|------------|

- 当社は、これまで鹿児島県の名産品でもある「さつま揚げ」を中心に製造販売を行っており、売上の多くがお中元やお歳暮の時期に集中することが課題であった。
- そこで、本補助金を活用して「生建電子システム」を導入することで、材料や食用油の劣化を防ぎ、通年での販売可能な新商品開発や既存商品のブラッシュアップを図る。このシステムを活用することで、食材や水に混入している化学物質や酸化物質が中和還元され、味の劣化を防ぐ効果や食用油自体が酸化しにくくなり、長持ちする効果も期待できる。また、このシステム導入後に実施された鹿児島県特産品コンクールにおいて、当社の「無添加さつま揚げ さば」が奨励賞を受賞するなど具体的な結果も出始めている。
- 今後も、「生建電子システム」導入をパンフレットやホームページなどで積極的にアピールするとともに、これまでさつま揚げやかまぼこには使用してこなかった種類の魚の活用した新商品開発にチャレンジして行く。



| 地域経済やバリューチェーンへの貢献 | 補助対象経費の内訳 |
|---|---|
| 地域では創業75年という老舗であるがゆえに、新しい取り組みやシステム導入にあたっては、先代との協議も重ねてきたが、事業承継を期に積極的に取り組むこととした。システムを活用した無添加製品等の新商品開発にも取り組むことで、地域に安心安全な「さつま揚げ」製品を届け続けていきたい。 | <p>■ 設備費</p>  <p>経費の主な使い道 設備費（生建電子システム導入費）</p> |

認定経営革新等支援機関の名称： 始良市商工会

認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容

| | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|---|---|
| <input type="checkbox"/> 制度内容の理解 | <input type="checkbox"/> 事業計画の立案 | <input checked="" type="checkbox"/> 各種提出書類の作成 | <input checked="" type="checkbox"/> 補助事業の実施 |
|----------------------------------|----------------------------------|---|---|

事業承継補助金申請に係る経営計画書作成支援。

今後に向けて～次の目標

| 2019年から2022年に向けて | 事業承継後の令和1年11月に行われた「県特産品コンクール」において「無添加のサバのさつまあげ」が奨励賞を受賞した。システム導入効果もあったかとする。今後も継続して地域素材を活用した新商品開発に取り組むたい。 |
|------------------|---|
| 売上高 | 120 %UP |

これから事業承継に取り組む事業者の方へ

| 被承継者からの一言コメント | 承継者からの一言コメント |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 承継後も事業を支えていくつもりです。引退ではないと思っています。 | 事業承継は新しいチャレンジへの分岐点です。恐れずにチャレンジしてください。 |